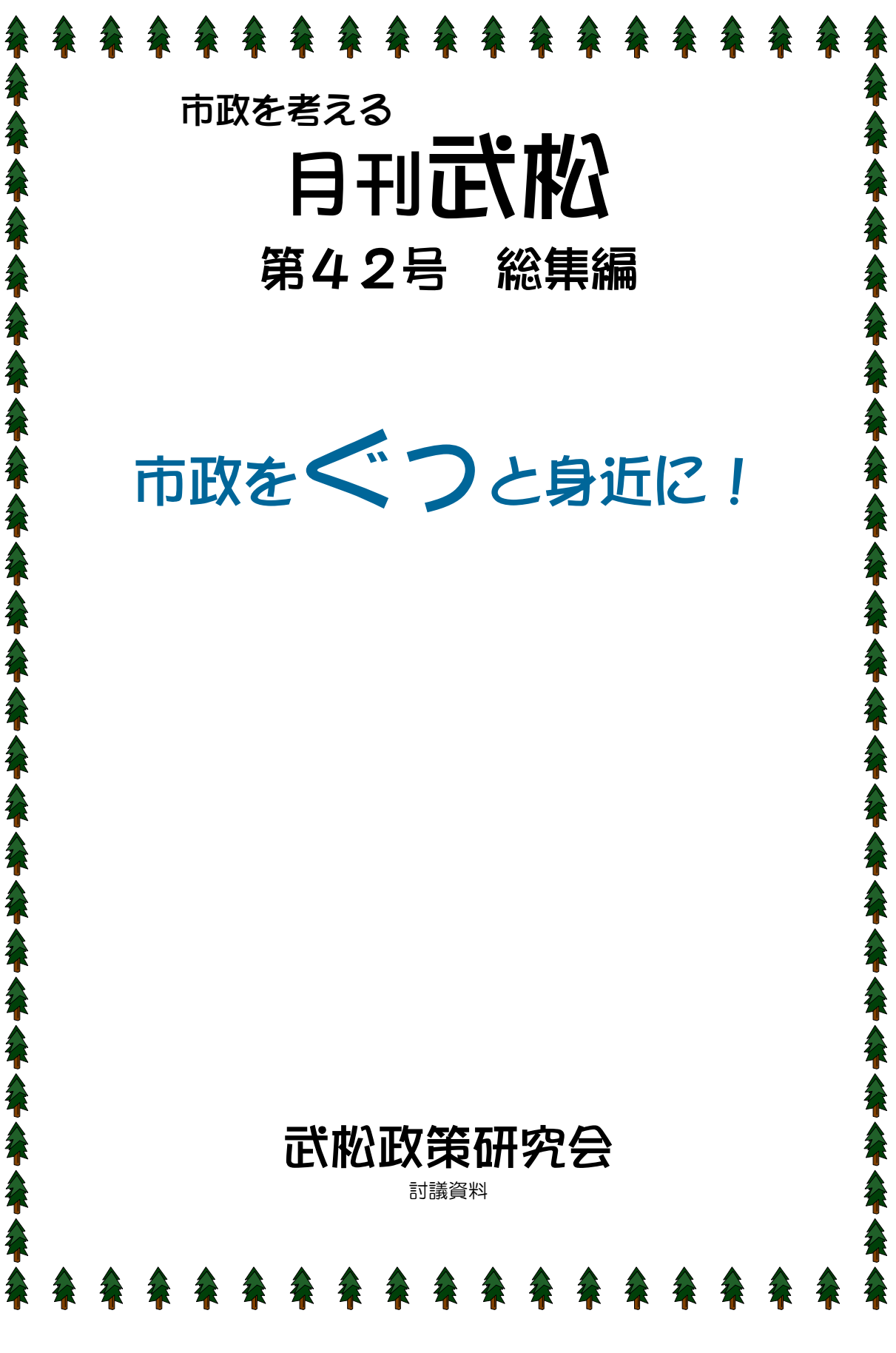




市政を考える

月刊武松

第42号 総集編

市政をくつと身近に！

武松政策研究会

討議資料

本当に大切なのは情報の共有

私は、4年間、「市政をぐっと身近に！」をモットーに月刊武松の発行と本会議での一般質問など積極的に広報・議会活動を行ってきました。

これは、まず皆さんに行政や議会に興味を持ってもらうこと、情報を共有することが一番大切だと考えたからです。そして、それが行政や議会のチェックやお互いの信頼関係を築くことにつながると考えたからです。

これからも皆様と情報を共有し、「しがらみの無い、確かな目」で正しい政治判断をしていきたいと思っています。

■月刊武松の発行

駅頭で4年間、朝6時半から9時まで、雨の日も風の日も配布しました。

第1・第2月曜：小田原駅東口 第1火曜：小田原駅西口 第1水曜：鴨宮駅南口
第1木曜：国府津駅 第1金曜：栢山駅

バイクで夏も冬も、市内各所を、自分で配布しています。

駅頭とバイクで月7000部、延べ28万部発行配布しました。

■ホームページ等の開設

2000年1月からホームページを立上げました。毎日更新の日刊武松、月刊武松のバックナンバーや勉強会の案内、データ等を掲載しています。

またeメールを頂いた方には、毎月月刊武松をメール送付しています。

URL <http://www6.airnet.ne.jp/takematu/>

i-mode <http://www6.airnet.ne.jp/takematu/i.htm/>

ホームページは**YAHOO!**で「武松忠」または「たけまつただし」と入力すると検索できます。

■月例勉強会の開催

まちづくり、教育や行政の仕組みを中心に33回の勉強会を開催。

■本会議で11回質問

6、9、12月の定例会では、基本的に議員であれば誰でも市長に対し一般質問できます。

12回の質問可能回数のうち、**11回一般質問**しました。ホームページで、質問と答弁の会議録も掲載しています。

小田原市議会議員の武松忠です。
私は、今37歳、保育園児から小学生まで3人の子供の父親です。
会社を辞め市議会議員に専念しています。
私は、しがらみの無い、確かな目で正しい政治判断をしていきます。



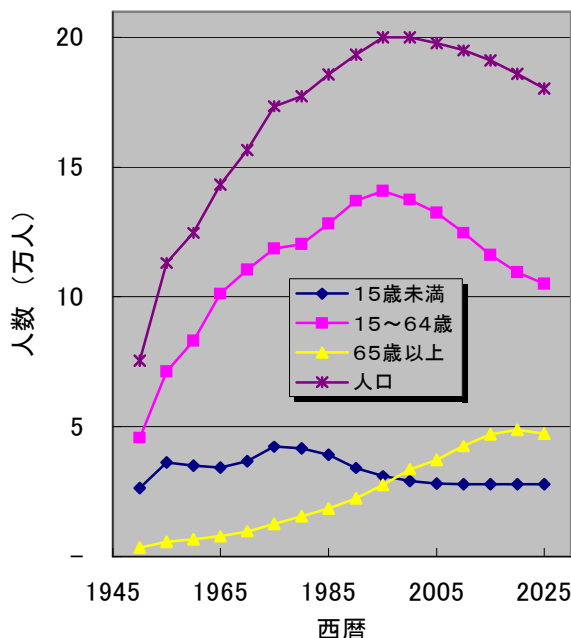
号	タイトル	発行年月
第1号	3バン無しで当選!、どの会派に入るか、こんなことまで禁止!	99/5
第2号	一般質問しました!、一般質問!?, サラリーマン辞めました!	99/7
第3号	駅前ゲームセンター問題!?, 常任委員会、お忙しいでしょう?	99/ 8
第4号	行政視察!?, 自動車保有台数	99/ 9
第5号	下水道事業の借金600億円!、医療費通知、政治資金増えないの?	99/10
第6号	行政と市民の意思の疎通!?, 市民参加、総選挙前の自公に思う	99/11
第7号	2000年問題!?, 公営企業決算、減量作戦	99/12
第8号	松永安左衛門!?, 成人式、ホームページ開設	00/ 1
第9号	商業地域の高層マンション!?, 後のまつり	00/ 2
第10号	市議会議員の所信表明!、まちづくりシンポジウムに参加しました	00/ 3
第11号	街の活性化!?, 子育て支援、エスカレータでいいのか?	00/ 4
第12号	進むバリアフリー!、常任委員会副委員長	00/ 5
第13号	借金の中身!?, 歴史を振り返って	00/ 7
第14号	医療分業!?, 医療費通知充実、IT革命?	00/ 9
第15号	増える車!減る駅利用!?, 市民サービス向上、情報コスト	00/10
第16号	明治大海嘯、介護保険6ヶ月、勉強会の教育論議から	00/11
第17号	自分の〇〇は自分で守る、今後に期待! 特例市!、IT基本法成立!	00/12
第18号	なぜ行革するのか?、世紀頭所感、教育のベースにあるもの①	01/ 1
第19号	積極型?予算、再発防止?、教育のベースにあるもの②	01/ 3
第20号	増加する義務的経費、教育のベースにあるもの③	01/ 4
第21号	自動車同乗中の事故増える!?, 教育のベースにあるもの④	01/ 5
第22号	未成年喫煙=薬物乱用の入口!、総務民生常任委員会副委員長に	01/ 6
第23号	聖域なき構造改革と市政!、回遊かターミナルか?	01/ 7
第24号	(仮)城下町ホールの進捗状況!?, 議会改革、一般会計と特別会計	01/ 8
第25号	東高西低!?, 道路特定財源!?, IT革命が起こす革命?	01/ 9
第26号	自治体合併の調査研究始まる!?, 国債30兆円!?, IT不況?	01/10
第27号	(仮)西さがみ連邦共和国!?, 特殊法人削減!?, ちょっと一息!	01/11
第28号	巡礼街道の渋滞対策が1位!、巡礼街道?順礼街道?	01/12
第29号	激動の商業!?, 行政評価システム!?, 狂牛病と年頭所感!	02/ 1
第30号	土木費伸びる!、合併を考える!?	02/ 3
第31号	駅は誰のためにあるのか!?, 温暖化!?	02/ 4
第32号	ついに就業者数が減る!?, 秘書いるの!?	02/ 5
第33号	高齢者が15歳未満越える!?, 議員年金!?	02/ 6
第34号	渋滞してるのに平塚の情報?、バリアフリー!、CO ₂ 削減!	02/ 7
第35号	住民基本台帳ネットワーク!、携帯と固定!?, あと8ヶ月!	02/ 8
第36号	議員定数は30名へ!、おいしかった!臭かった?、あと7ヶ月!	02/ 9
第37号	議員定数は30名に決定!、手取りいくら?	02/10
第38号	減税が借金に!?, 退職金いくら?	02/11
第39号	救急出動1.48倍!?	02/12
第40号	スパウザ小田原購入!?, 事業の見直し	03/ 1
第41号	私の街は大丈夫?、スパウザ小田原特集	03/ 2

ご連絡いただければ送付致します。

人口減少時代に突入！

2025年には18万人に

図1 小田原市の将来人口と年齢区分の推移



■用語説明

0～14歳＝年少、15～64歳＝生産年齢
65歳以上＝老年

■転出人口が転入人口を上回る。

小田原市に引越して来る人よりも、市外へ引越してしまう人の方が多い。(2002年中)

転入 7167人、転出 7819人

■老年人口が年少人口を上回る。

2000年国勢調査結果から、初めて老年人口が、年少人口を上回りました。

■2025年には人口18万人に！

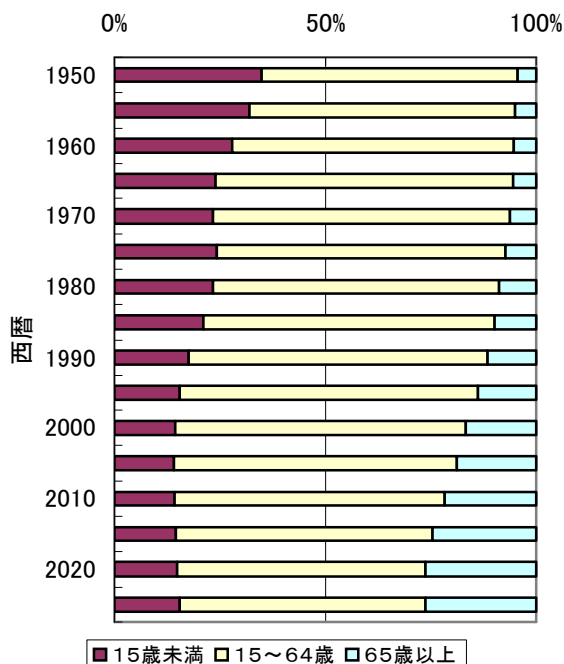
図1の将来人口は1995年と2000年の国勢調査の各年齢人口を基に、5年間の変化率から人口を計算しました。また、毎年の新生児数を1900人と仮定しています。

この結果、2025年には、**総人口が18万人まで減少**すると推計しました。

表1 生産年齢一人当りの老年人口

西暦	生産年齢人口(人)	老年人口(人)	生産年齢1人当りの老年人数
2000	13.76万	3.35万	0.24人
2020	10.94万	4.89万	0.45人

図2 小田原市の年齢区分の割合の推移



■将来推計からわかること

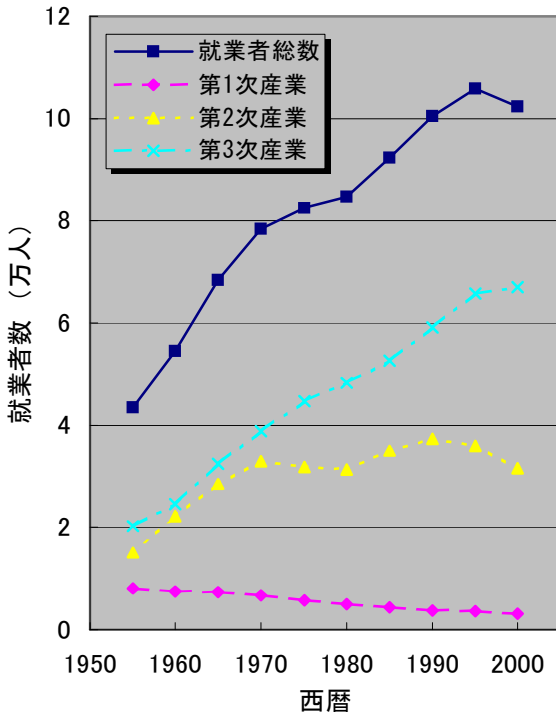
- ①老年(65歳以上)人口は、2020年には、4.89万人、**高齢化率23%**となる。
- ②生産年齢(15～64歳)人口は、2025年には、10.5万人まで減少する。
- ③生産年齢一人当たりの老年人数は、2000年の0.24人から、2020年には0.45人と1.9倍になる。

現役世代は、介護保険料の納付(25年で約100万円)から、年金支給年齢の先送り(5年で1千万円以上減)に老年人口の増加が加わります。みんなで真剣に考え、備えておかねば、**自分の将来や子供達にしわ寄せが来る**のです。

都市の魅力が企業を呼ぶ！

まちづくり、環境、福祉、教育、文化等施策の総合的な見直しが必要

図3 小田原市の産業別就業者数の推移



■就業者総数減る！

小田原市内の就業者の総数(働いている人数)が、前回1995年国勢調査の10万5877人より10万2331人へと約3500人減少しました。(図3参照)

製造業系である第2次産業^{*1}の従業者が、5年間で約4500人減少し、サービス業系の第3次産業^{*2}が、1300人増加しました。

図4の小田原市内の工業の事業所数と従業者数の推移を見るとさらに明らかです。

工業の従業者数は、1991年から2000年の10年間で－8400人、率にして34.5%も減少しています。

これだけの短期間に産業構造が大きく変化しています。特に製造業からサービス業へ従業者がシフトしています。

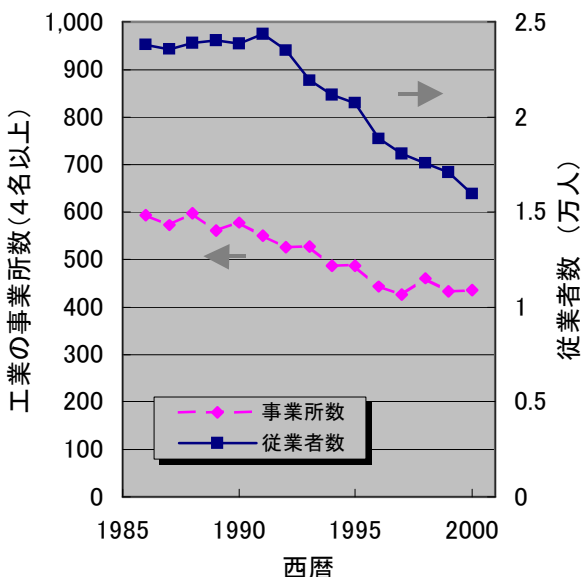
■語句説明

第1次産業：農業、林業、漁業

^{*1}第2次産業：鉱業、建設業、製造業、水道業
電気・ガス・熱供給

^{*2}第3次産業：運輸・通信業、卸売・小売業、飲食店、金融・保険業、不動産業
サービス業、公務員等

図4 小田原市の工業の事業所数と従業者数の推移



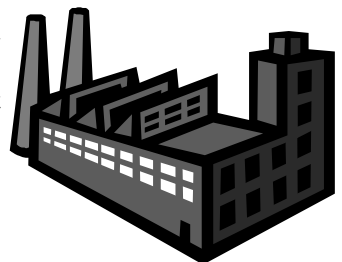
■都市の魅力が企業を呼ぶ！

全国には1200を超える工業団地があります。その中で企業に小田原市を選択してもらわなければなりません。

いま企業は、地価や交通の便だけで誘致できません。進出する**地域の発展性や環境、文化**など**都市の魅力**が大切だといわれています。

企業誘致を最終目標にした、まちづくり、環境、福祉、教育、文化等、様々な施策の総合的な見直しが必要です。

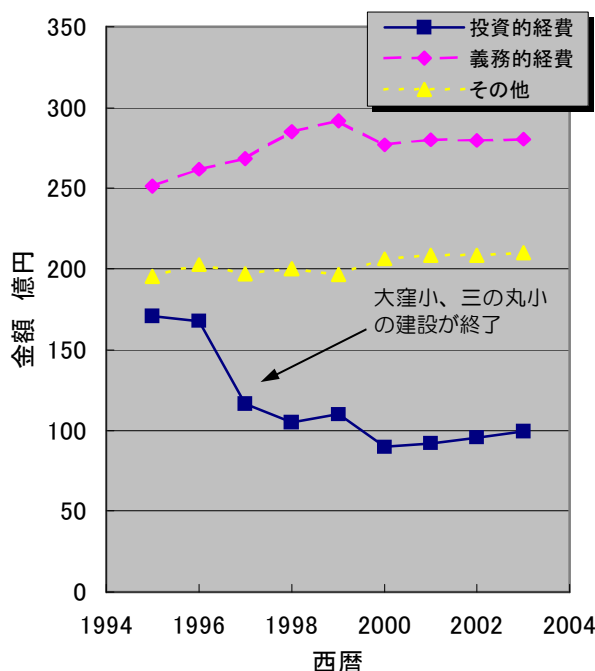
企業流出の防止と企業誘致を進めなくては、我々の子供たちの働く場が少なくなってしまうです。



既存事業の見直しを！

見直さなければ新規事業ができない。

図5 一般会計歳出(性質別当初予算)



■扶助費の増加

- ・義務的経費のうち、扶助費は、国県で規定されているものがほとんどで、基本的に市はどうすることもできません。**扶助費の増加は景気動向や高齢化など支給対象者の増加が原因です。**
- ・投資的経費は、義務的経費増加に食われた形で減少しており、**市税等の歳入増や既存事業を見直さなければ、原資を投資的経費にまわすことができません。**

■用語説明

投資的経費

学校教育・社会教育施設整備や道路・公園・河川整備等にかかる経費

義務的経費

人件費＋扶助費＋公債費

人件費：給料、職員手当、共済費等

扶助費：生活保護費、保育所運営費、児童手当、医療費助成等で金額の95%は、国、県の規定によるもの。

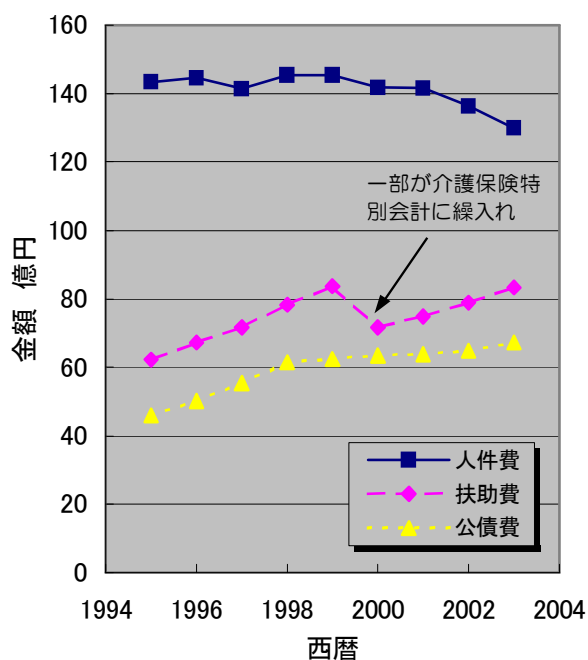
公債費：借金の返済

その他

物件費＋繰出金＋補助費＋貸付金＋維持修繕費等

物件費：委託料、使用料、賃金、旅費、需用費(消耗品、燃料、光熱水費等)

図6 一般会計歳出(義務的経費内訳)



■既存事業の見直し

今後、扶助費については、増えることはあっても減ることはありません。そして、それを市が勝手に減らすことができません。ですから、財政が厳しい状態で**新規事業をするには、既存事業や継続事業、各団体や市民団体への補助金までも、全て見直し、その原資を確保しなければなりません。**

小田原市が本格的に導入する行政評価システムが運用されれば、事業の目的や費用対効果を基に優先順位の決定や事業の見直しに客観的なチェックが入ります。

このシステムは、チェックする評価票が公開されてはじめて客観性が機能するものです。

みんなで行政をチェックしていきましょう。

本当に大切なのは、情報の共有

- ・これからも月刊武松を発行します。
- ・情報公開を進め、市民が市政に参加しやすい環境を作ります。
- ・行政情報を共有し、問題点を明確にします。

多くの皆さんに市政に興味を持ってもらうには、情報を発信しつづけなければなりません。様々な情報をわかりやすく伝え、皆さんと情報を共有するために、月刊武松の発行を継続していきます。

安心して住める街に！

- ・企業流出を食い止め、誘致策を進めます。
- ・介護、育児支援の充実（予防対策）
- ・安心して子供達が遊べる環境整備（渋滞対策、空地の有効活用）
- ・公害データの公開と継続的な観測をします。
- ・まちづくりや街並み整備のきっかけづくりと支援をします。

小田原の将来を考えると、現役世代の負担増は避けられません。将来に渡って安心して住める街にするには、企業誘致を進め、現役世代を増やさなければなりません。

今、企業は地価や交通の便だけでは誘致できません。街の魅力があるかないか、従業員が安心して住める環境、まちづくりがポイントです。

税金を無駄使いしない！

- ・民間委託を積極的に進めます。
- ・既存施設の有効活用をします。
- ・事業評価を浸透させ、事業の目的と費用対効果を明らかにします。
- ・後年度負担を考慮し、過剰投資を防ぎます。

今、新規事業を始めるには、継続事業を見直さなければ、その原資がありません。今後、全ての事業に対し、事業の目的と費用対効果の見直しが行われます。見直しですから増額もありますが、そのほとんどは減額です。

行政がやらなければならないことを慎重に検討し、民間委託できることは積極的に民間委託することが大切です。そして行政はそのチェックをする。我々市民も真剣に、自分達の将来や子供達のことを考え、行政をチェックすることが大切です。

私の街は大丈夫？

もっと市政に関心を！ 税金の使われ方、防災、環境、教育・・・

“月刊武松” 読者募集中！

お名前、ご住所をお知らせ頂いた方には、年1回月刊武松を送付させていただきます。

メールアドレス（携帯メールは除く）をお知らせ頂いた方には、毎月eメールで月刊武松を送付させていただきます。

武松政策研究会

代表 市議会議員 武松 忠

皆様と共によりよい市政を考えて
いきたいと思います。
皆様の声をお聞かせ下さい。



武松 忠のプロフィール

- ・昭和40年8月9日市内国府津生まれ
- ・小田原市立国府津小学校、国府津中学校卒
- ・神奈川県立西湘高等学校卒
- ・東京職業訓練短期大学校電気科卒
- ・平成11年6月まで日本真空技術株式会社勤務
ロボット・半導体製造装置等の開発に従事
- ・日本赤ちゃん学会正会員
- ・配食ボランティア虹の会事務局
- ・家族 5人（妻、1男2女）

役職

- ・福祉文教常任委員会副委員長（平成12年度）
- ・総務民生常任委員会副委員長（平成13年度）
- ・小田原市社会福祉協議会理事
- ・小田原市都市景観審議会委員